

平成27年度 自己評価表 (最終評価)

鳥取県立鳥取工業高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをおとして、優れた知性や創造性を身に付けたくまい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。	今年度の重点目標	1. 学力の向上 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と進路実現		
年度当初 目標(年度末の目指す姿)		目標達成のための方策	経過・達成状況		
評価項目	評価の具体項目	現状	評価結果 3月		
1	① 学力の向上	【授業改革】 ・進路を切り開く主体的な学びを ・80パーセント以上の生徒が授業に満足 【学力の育成】 ・進捗状況において、SS50以上の生徒が各学年で10名以上(理数工学科) ・専門教育に対応する基礎的な数学力の定着 ・基礎力診断テストにおける、基礎力不足層の減少 【学習環境の整備】 ・教室の整備と授業準備を励行 ・5S「あさひ」を実践	【授業改革】 ・学力向上のための教員研修会を、校内で2回実施 ・アクティブラーニングを実践する授業の増加 ・タブレットおよび電子黒板の導入により、わかりやすい授業づくり ・生徒の授業満足度は72% 【学力の育成】 ・学び直しとして1年生を対象に基礎数学力向上補習の実施 ・進学補習の実施 ・理数工学科各学年のSS数値目標は未達成 【学習環境の整備】 ・週に1度の「5S・あさひ」の目が定着 ・授業に集中できる環境づくりに努力	B	【授業改革】 ・学力向上のための教員研修会の継続実施 ・教師各々が生徒の主体となる授業についてさらに研究・実践 ・ICTをさらに活用し、わかりやすい授業を実践 【学力の育成】 ・1年生を対象とした基礎数学力向上補習の継続実施 ・3年間を見据えた指導計画の作成・実践 【学習環境の整備】 ・週に1度の「5S・あさひ」の日の継続実施
		【進路行事等の取り組み】 ・担任・教科担任で適宜面談・声かけ等を実施 ・生徒の進路目標の早期設定に課題 【生徒の学習状況(自宅学習調査結果等より)】 ・自宅学習時間を含めた全学習時間の増加が課題 ・自主学習を行うためのスペースの確保 ・課題提出等期限厳守に課題 【シラバス】 ・評価基準・方法を周知	【学習意欲の喚起】 ・基礎学力の定着と向上 ・個々の進路実現に向けて、早期の進路目標の設定 ・自主的に取り組むことのできる学習環境の整備、及び、学習意欲の向上 【学習意欲の喚起】 ・面談等による生徒個々の進路目標の把握 ・多様な進路目標に対応した授業の工夫改善 ・「一人一資格」に向け、資格取得の積極的な呼びかけ ・担任、教科、科、進路指導部との連携による自主的な学習意欲の育成	C	【学習意欲の喚起】 ・学習環境の整備及び学習規律の徹底 ・魅力ある授業づくりへの継続的努力 ・担任、教科、科、分掌との連携による自宅学習の意識づけ ・IT機器の利用時間を減らすよう、学校全体の取り組みを計画
2	① 互いを尊重する態度と社会性の涵養	【人権教育・性教育】 ・WYSH教育公開LHRを1年生で実施 ・性教育LHRを全学年で実施、他者の人権を尊重する態度の育成に課題 【ハイパー-QU】 ・職員研修で全職員に周知、クラス目標を設定 ・クラスづくり・LHR・面談等に結果を活用するも、生徒自身の自己理解に課題 【いじめアンケートの活用】 ・いじめ問題に早期に対応、各教科でも人権教育を推進 ・生徒が相談しやすい体制を整備、悩みを抱えている生徒は少なくない 【人権教育校外研修「一人一研修」】 ・9割の職員が「一人一研修」に取り組んだが、LHR等への研修成果の還元課題 ・情報提供を速やかに実施	【人権教育・性教育】 ・人権意識が高揚し、他者の人権・存在を尊重できる生徒の増加 【ハイパー-QU】 ・自己理解が出来て、集団規律が順守できる生徒の増加 【いじめアンケートの活用】 ・学校で学習できるのが楽しいと思える生徒の増加 ・悩みが相談しやすい体制を整備、悩みを抱えている生徒は少なくない 【人権教育校外研修「一人一研修」】 ・一人一研修の参加率を9割以上 ・研修成果を教科、LHR等に還元	B	【人権教育・性教育】 ・講演会やLHRなどの年間行事を見直し、計画的に実施 ・人権LHR等の実践内容の工夫 【ハイパー-QU】 ・hyper-QUアンケートと職員研修会を継続し、学級や生徒理解に向けてアンケート結果を活用を推進 ・クラス目標にこだわらず、クラスづくりの視点に立った取り組みを提案 【いじめアンケートの活用】 ・いじめ等に関するアンケート(3回)を実施し、問題の早期発見・早期対応に尽力 【人権教育校外研修「一人一研修」】 ・人権教育に関する校外研修への参加を継続的に呼びかけ ・職員参加率は74.6%
		【基本的な生活習慣の確立】 ・5S、「あさひ」の考えは生徒・職員に浸透したが、生徒の主体的な取り組みに課題 ・挨拶は改善傾向にあるが、自分から挨拶できる生徒が8割 ・学校は着ち着いてきているものの、ルール・マナーを守る規範意識の更なる向上に課題 ・頭髪検査で各回不合格となる生徒が全校で平均約40名 ・正しい制服の着こなしが不徹底 【ボランティア活動】 ・活動が活発化しており、その流れの継承が必須 ・平成26年度実績:テクノボランティア20名、またみみの郷ボランティア6名、「ダム、ゼツタイ」普及運動ボランティア22名、献血街頭キャンペーンボランティア18名、砂丘ボランティア9名、県社協主催ボランティア17名、等 【部活動、生徒会活動】 ・各クラス役員の活動の活発化 【環境改善】 ・廃棄物は平成23年度比5%減、電力は平成22年度比1%減 【安全教育】 ・自分自身を守る力の上 ・交通ルールやマナー等社会生活に必要な正しい知識を習得 ・社会の一員として責任ある行動の実践 ・規範意識の向上とルール・マナーの実践力の向上 ・登下校時の無事故	【基本的な生活習慣の確立】 ・主体的に自らの生活と学習環境の改善に取り組める生徒の増加 ・いじめ問題に早期に対応、各教科でも人権教育を推進 ・生徒が相談しやすい体制を整備、悩みを抱えている生徒は少なくない 【ボランティア活動】 ・ボランティア活動の参加者、昨年比10%増加 【部活動、生徒会活動】 ・各クラス役員の活動の活発化 【環境改善】 ・廃棄物は平成23年度比5%減、電力は平成22年度比1%減 【安全教育】 ・自分自身を守る力の上 ・交通ルールやマナー等社会生活に必要な正しい知識を習得 ・社会の一員として責任ある行動の実践 ・規範意識の向上とルール・マナーの実践力の向上 ・登下校時の無事故	B	【基本的な生活習慣の確立】 ・頭髪検査不合格者数は昨年度と比べ減少 ・職員会議・職員朝礼等で指導方針の確認を徹底、認識を共有し、行動の一元化を推進 ・今年度導入した「学年ノート」「学年指導」に効果 ・自ら挨拶できる生徒は年度当初増加したものの、「8割」の目標は未達成 ・執行部の生徒による「強化月間目標発表ポスター」の取り組み ・無許可自転車減少、駐輪マナー向上 【ボランティア活動】 ・昨年度に準ずる多数の生徒がボランティアに参加 【部活動、生徒会活動】 ・各分掌と連携し、進路指導委員、保健委員など、クラス生徒役員の活動が活発化 ・中国大会出場選手数が昨年より40%以上増加 【環境改善】 ・TEAS講演会、環境LHRを実施 ・年度途中に数値目標の変更を行い、廃棄物は2011年度比48%減、電力は2010年度比13%減に設定。12月段階で、廃棄物2011年度比43.3%減、電力2010年度比12.8%減を達成。 【安全教育】 ・計画どおり、各種安全教室を実施。 ・規範意識の向上、ルール・マナーの実践力に課題
3	① 専門的な知識・技術の習得	【工業技術基礎(共通実習)の充実】 ・例年と比較し、レポート内容指導が必要 ・レポートを期限内に提出できない生徒があるが、各担当科で提出・再提出の指導を行い改善傾向 【人材育成】 ・資格・検定ガイドブックを4月中旬に配布 ・計算技術検定では科・学年が重複、他の資格において早期・放課後補習を多くの科で実施した結果、一人一資格取得を概ね達成 (測量士補4名合格、計算技術検定合格者85%) ・鳥工版デュアルシステムを3企業で実施 ・企業見学を工業関連企業19社・学校関係3校・公共施設6箇所で行う ・インターンシップでは全体の事前説明会、科別説明会を実施し、ルール・マナーの徹底を指導 ・実習後の測定機器、実習室等の整理・整頓・清掃は各科とも定着 ・ものづくりコンテスト中国大会の2部門に各1名出場し、電子回路組立部門で3位入賞と健闘	【工業技術基礎(共通実習)の充実】 ・レポート内容への赤ペン指導やコメント記入による指導の実施 ・レポートの書き方と内容の充実 【人材育成】 ・3年次までに一人一資格以上を取得 ・生徒の専門的な知識や技術の向上 ・5Sの定着	C	【工業技術基礎(共通実習)の充実】 ・レポート内容への赤ペン指導やコメント記入が定着 ・レポート提出期限前日の個別確認は、概ね達成 【人材育成】 ・工業科各科で資格取得や行事への取り組みを推進。とくに電気科では、早期・放課後、夏休みを利用した資格取得の実施 ・インターンシップおよび研修旅行の受入企業を早期に確定、生徒の準備期間を確保 ・理数工学科で本年度も「漢検」「英検」「数検」「公害防止管理者」「危険物取扱者」の5資格を奨励し、補習を実施。公害防止管理者で1名合格、どの資格も例年並みの合格率を維持 ・高校生ものづくりコンテストで県大会優勝など、計3名の生徒が中国大会に出場 ・県のプログラミングコンテストにおいて情報産業協会会長賞を受賞、知事と交流
		【職業意識の育成】 ・インターンシップ、企業見学、応募前見学、社会人講師を実施、進路LHRを充実 ・外部就職ガイダンス等、進路行事を実施 【進路指導の徹底】 ・進路希望調査を1、2年生は3回、3年生は2回実施し、結果活用 ・理数工学科において、高大交流事業・大学訪問を実施 ・進学補習、個別指導、作文指導、サマーサイエンスセミナーを実施し、学力向上に努力 ・外部模試の結果から対策を考え指導法等に活用 ・2年生に面接ガイダンス、希望者に企業見学を実施 ・個別進路面接を2年生の3学期から開始 ・10人面接の実施時期を早め、各科の面接指導、担任面談がより充実 ・理数工学科3年生の進学検討会を7月・11月・1月に実施 ・一次採用試験合格率が82.4%となり、前年度より10%以上向上	【職業意識の育成】 ・企業と連携した活動及び校内での進路行事等を通じて職業観、勤労意識を高揚 【進路指導の徹底】 ・キャリア教育の視点に立ち、進路目標を早い段階で定め、目標に向けた日々の取組による生徒の学力及びコミュニケーション能力の向上 ・就職は一回目の選考試験合格者90%以上、進学は10名以上が国公立大学に合格 【進路指導の徹底】 ・ポートフォリオの活用を開始 ・進路希望調査を1、2年生は3回、3年生は2回実施し、定期的に自分の進路を検討、再確認 ・理数工学科においては、理数工学I、理数工学探究への取組及び高大交流事業・大学訪問を実施し、進路選択を具体化 ・補習や各種の指導、進路行事の実施 ・外部模試の結果を学習にフィードバック ・個別進路面接を2年生の3学期から開始、3年生4月時点で進路意識高揚 ・生徒が自己の目標を明確にし、自分の思いを伝えることができるよう面接指導を実施 ・3年生の8月には最終的な進路を決定	B	【職業意識の育成】 ・インターンシップ、企業見学、応募前見学、社会人講師を実施 ・企業見学については、事前指導の強化を認識 ・外部就職ガイダンス等、進路行事を実施 ・鳥取市主催の企業見学では、就職希望者全員が参加し、地元企業について学習 ・校内での企業説明会を実施 【進路指導の徹底】 ・キャリア教育の視点で入学から卒業までの各行事やLHR等の連携を見直し指導 ・ポートフォリオの有効な活用方法の検討 ・工業科科を含めた進学希望者の意識向上のために大学訪問等を実施 ・外部模試の結果を有効活用した学習指導の実施 ・進学検討会を継続実施するとともに内容を充実 ・個別進路面接を実施し、進路意識を向上 ・10人面接等の各種面接指導の連携と効果的な手法の検討
		【職業意識の育成】 ・インターンシップ、企業見学、応募前見学、社会人講師を実施、進路LHRを充実 ・外部就職ガイダンス等、進路行事を実施 【進路指導の徹底】 ・進路希望調査を1、2年生は3回、3年生は2回実施し、結果活用 ・理数工学科において、高大交流事業・大学訪問を実施 ・進学補習、個別指導、作文指導、サマーサイエンスセミナーを実施し、学力向上に努力 ・外部模試の結果から対策を考え指導法等に活用 ・2年生に面接ガイダンス、希望者に企業見学を実施 ・個別進路面接を2年生の3学期から開始 ・10人面接の実施時期を早め、各科の面接指導、担任面談がより充実 ・理数工学科3年生の進学検討会を7月・11月・1月に実施 ・一次採用試験合格率が82.4%となり、前年度より10%以上向上	【職業意識の育成】 ・企業と連携した活動及び校内での進路行事等を通じて職業観、勤労意識を高揚 【進路指導の徹底】 ・キャリア教育の視点に立ち、進路目標を早い段階で定め、目標に向けた日々の取組による生徒の学力及びコミュニケーション能力の向上 ・就職は一回目の選考試験合格者90%以上、進学は10名以上が国公立大学に合格 【進路指導の徹底】 ・ポートフォリオの活用を開始 ・進路希望調査を1、2年生は3回、3年生は2回実施し、定期的に自分の進路を検討、再確認 ・理数工学科においては、理数工学I、理数工学探究への取組及び高大交流事業・大学訪問を実施し、進路選択を具体化 ・補習や各種の指導、進路行事の実施 ・外部模試の結果を学習にフィードバック ・個別進路面接を2年生の3学期から開始、3年生4月時点で進路意識高揚 ・生徒が自己の目標を明確にし、自分の思いを伝えることができるよう面接指導を実施 ・3年生の8月には最終的な進路を決定	B	【職業意識の育成】 ・インターンシップ、企業見学、応募前見学、社会人講師を実施 ・企業見学については、事前指導の強化を認識 ・外部就職ガイダンス等、進路行事を実施 ・鳥取市主催の企業見学では、就職希望者全員が参加し、地元企業について学習 ・校内での企業説明会を実施 【進路指導の徹底】 ・キャリア教育の視点で入学から卒業までの各行事やLHR等の連携を見直し指導 ・ポートフォリオの有効な活用方法の検討 ・工業科科を含めた進学希望者の意識向上のために大学訪問等を実施 ・外部模試の結果を有効活用した学習指導の実施 ・進学検討会を継続実施するとともに内容を充実 ・個別進路面接を実施し、進路意識を向上 ・10人面接等の各種面接指導の連携と効果的な手法の検討
② 地域や産業界との連携強化	【人材育成】 ・各事業の実施により企業との情報交換等、連携を強化 【情報発信】 ・各事業の実施と学校HPの更新頻度が向上 ・鳥取県技能振興フェア参加、津・井地区文化祭での製作品展示やものづくり実演を実施 ・出前授業(実施校数6校)や中学生体験入学、鳥工TEC等の実施により科の内容を中学生へPR 【地域との連携】 ・津・井地域懇談会や清掃活動、マナーアップ運動等の行事を通して、地域との連携を強化 【PTA活動の推進】 ・まちこみメールや保護者との連携により学校行事への保護者参加が30%以上増加	【人材育成】 ・将来の自分の姿を考え、目標をたてて近づこうとする主体的な生徒の増加 【情報発信】 ・学校の取組がわかる学校HPづくり ・出前授業の拡大 ・鳥工TECに対する中学生の興味の上 【地域との連携】 ・慣例にとらわれない各事業の実施 ・あいさつ運動に生徒が参加 【PTA活動の推進】 ・各行事への保護者参加数の増加	B	【人材育成】 ・企業見学、インターンシップ、鳥工版デュアルシステムなど生徒への事前・事後指導を強化 ・生徒のインターンシップなどに熱心に取り組んだことによる、新規求人や求人数の増加 【情報発信】 ・各事業を、学校HPでの情報発信まで含めて計画 ・出前授業の内容充実を図った検討 ・中学生や地域へ向けて、鳥工TECをより一層PR 【地域との連携】 ・慣例にとらわれない各事業の実施 ・あいさつ運動に生徒が参加 【PTA活動の推進】 ・まちこみメールやHPを充実するとともに、PTA役員との連携による保護者への案内	

注) 5S:整理・整頓・清掃・清潔・整 5S:整理・整頓・清掃・清潔・整 あさひ:挨拶・作法・人の話を聞く WYSH教育:性に関する教育 ハイパー-QUアンケート:よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート デュアルシステム:学校の授業と並行して企業で学習するシステム 鳥工TEC:文化祭における各科のものづくりの紹介

評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 [40%程度] E:目標・方策の見直し [20%程度]